

特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
(平成21年2月末現在)

企業数 28社
雇用数 843人

【特集記事】金融ITフェア

金融・情報通信産業に新たな活路を見出すべく誕生した「金融・情報特区」新たな産業が求める人とは。

平成21年2月27日開催「金融ITフェア」

「世界不況の真ただ中でも右肩上がりの産業で、また成長を続けています。」と、テレマーケティング業界について説明するのは、株式会社もしもしホットラインの東京本社からかけつけた営業推進部長の森一恵さん。同社は、全国35拠点、約2万名のサービスネットワークを有する創業21年の業界大手。成長産業として抱える課題の一つとして都市部における人材確保の難しさがある。森さんは「沖縄では子育て中の女性を含め、色々な人が働ける生活環境が整っている」と都市部にはない沖縄の魅力に触れ、オフィスの確保やコストの面と併せて、地方拠点に業界の注目が

右肩上がりのテレマーケティング業界



株式会社もしもしホットライン営業推進部長・森一恵氏による講話。成長産業であるテレマーケティング業界の動向、コールセンターの業務やキャリア形成などについて説明。

コンタクトセンター・セミナー

集まっていることを紹介。また、オペレーターとして知識やコミュニケーション力、PCスキルを身につけながら、様々なキャリアが拓けることを説明した。

名護で見つけた「やりがいのある仕事」

同社が委託を受け運営する「かんぽコールセンター」は平成13年に名護市に進出。パネルディスカッションでは、それぞれに異なるきっかけや目的で名護センターに入社したスタッフ



株式会社もしもしホットライン名護センターマネージャー佐久本理香氏をモデレーターとしたパネルディスカッション。かんぽコールセンターでスーパーバイザー、マーケティングを務める社員5名が経験談等を語った。

名以上のスタッフを束ねる佐久本理香さんが務めた。「ただ働くのではなく、やりがいを感ずる仕事を探していた」と話すスーパーバイザー級のスタッフもいれば、「子育てと両立させながらマーケティングとしての道を極めたい」というスタッフもおり、各々のライフステージに合った働き方ができる職場であることがうかがえる。センター設立時に20歳で入社したスタッフは、戸惑いながら会得したノウハウを7年後の今、後輩の指導に役立てる。また、話すことが苦手だったがその不得手を克服してリーダーを目指す男性スタッフや、トレーナーとなつて東京で研修を取り仕切る事もあるベテラン女性スタッフも紹介された。



コンタクトセンター・セミナー会場で講師の話に熱心に聞き入る参加者。

約180名が経験談や仕事への思いを語った。モデレーターは、設立当初からのメンバーで現在マネージャーとして

<金融ITフェア協力企業>

株式会社 もしもしホットライン

- 【主な事業】
・コールセンター構築・運営
・バックオフィス・事務センター構築・運営
・お客さまの声分析(VOC)
・コールセンターデータの活用など
- 【本社所在地】
東京都渋谷区
- 【名護センター】
名護市産業支援センター内
(同センター従業員数)187名
- 【会社ホームページ】
http://www.moshimoshi.co.jp

株式会社 外為どっとコム

- 【主な事業】
インターネットを通じて個人投資家の皆様にFX(外国為替証拠金取引)及び関連するサービスを提供
- 【本社所在地】
東京都港区
- 【名護支店】
名護市みらい3号館(豊原)
(名護支店従業員数)35名
- 【会社ホームページ】
http://www.gaitome.com

クオリサイトテクノロジーズ 株式会社

- 【主な事業】
・JAVAに特化したシステム開発サービス
・データセンター運営・維持および保守サービス
- 【本社所在地】
名護市みらい2号館(豊原)
- 【従業員数】20名
- 【会社ホームページ】
http://www.qualitysite.co.jp

※各拠点の社員数は平成21年2月末現在のものです。



株式会社
ウェブワールド
代表取締役 **崎濱 一秀**

Profile

昭和43年生まれ。前職はホテルマン。電子化という時代のうねりを受けて30才の時にITの世界に飛び込む。再就職したIT企業で、ネットワーク構築について実地で知識・技術を習得した後、2005年に独立。名護市のインキュベーション施設であるマルチメディア館に入居し、2006年に株式会社ウェブワールドを起業。現在、やはりインターネットサービスなどのプロバイダ事業のほか、システム開発事業、運用保守サポート、IT関連コンサルティング事業を含む様々な事業を展開している。



特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
(平成21年3月末現在)

企業数 27社
雇用数 866人

30才から挑んだIT業界 名護で遂げたい夢とは

努力すればするほど報われた
IT業界の「能力評価主義」

「30歳でIT企業に転職したきっかけは、(崎濱さん) 当時は「2000年問題」が取りざたされていた頃で、電子化という流れにとっても興味がありました。その頃ちやうど名護のIT企業で求人募集がありました。思い切って応募したところ採用されました。担当する業務はネットワーク構築、といっても知識も経験もないままのスタートでしたので、入社後に、初めてのパソコン」のような入門書を買って読みました。(笑) 参考になる前例も事例も乏しい時代だったので、とにかく分からないことは同僚に聞いたり、試行錯誤しながら必死になってネットワーク構築に取り組みしていました。私にとって励みになったのは、会社が徹底した能力評価主義を取り入れていたことです。努力して実績を積み上げ、それがそのまま自分の力量の評価につながる。IT業界が飛躍期にあったことも追い風だったと思いますが、30歳で資格もないまま飛び込んで、今日までITに携われて来られたのは、自分でも幸運だと感じています。

↑ 起業までの経緯について。

(崎濱さん) 何社かのIT企業で転職しながら、病院や公共機関等の顧客が増え、大規模なイントラネット(特定の地域に限定されて構築されたネットワーク)の構築にも加わったことで実績も広がりました。

株式会社
ウェブワールド

- プロバイダ事業(やんばるインターネットサービスなど)
- システム開発事業
- 広告出版関連事業
- IT関連コンサルティング事業

【本社所在地】
名護市城1丁目14-11 1F

【会社ホームページ】
<http://www.yanbaru.ne.jp/>



極意

独立するなら応援すると言ってくれる仲間やお客様もいたので起業しようと思った。平成17年にマルチメディア館に入居して会社設立に向けた準備を始めました。

「名護」へのこだわり
「やんばる」への思い

「中南部ではなく名護に拠点を置くのは。(崎濱さん) 我が社の主要事業であるISP(インターネットに接続するサービス)は全国的に提供しているの、中南部に事務所を構えることも選択肢としてはあったのですが、これまでお世話になった地域への恩返しもしたいですし、ITを活用した情報発信のお手伝い、インターネットに潜む危険性やマナーについての周知など、この地域で取り組みたい事がまた山ほどあるので名護を本拠地としています。

インターネットの醍醐味はより便利に、より楽しく情報の発信や共有ができることです。IT技術を多面的に活用することで、インターネットをどんどん楽しいものに変えていき、その楽しさを増やせることで更にIT化が充実して楽しさが倍増する。そういう循環が、この地域を元気づける。一つの要素になれば嬉しいですね。また、インターネットは、パソコンを「つなげる」事だけではなく個人情報管理やウイルス対策など、「守る」ための知識も必要です。保守管理の重要性についても地域の中で理解が深

「電話したら来てくれる」
それがブランドイメージ

まるよう活動していきたいと思っています。

サポート業務についても、この地域で一番必要とされているのは、トラブル発生時にお宅へ訪問したり、定期的に状況をチェックしたりするきめ細かなサービスだと思っています。屋敷地に住むおじいちゃんやパソコンを買って、インターネットにつなげたけどつながらない、そこで私に電話をくれました。接続した後、「こんなに便利なものなんだから、若い者ももっと使えほしいのに」とおっしゃった。不思議に思ったら、おじいちゃん近所の60代の方達のことを「若い者」と呼んでいて、パソコンが敬遠されていることを残念がっていたんです。私自身、何も分からないうちに、人に教えてもらいながらここまで来ましたので、今度は自分が、おじいちゃんやおばあちゃんを含め、学びたいと思う人をサポートしていきたいと考えています。教えてくれるひとがいるから始めてみよう、わからなくなったら電話して聞ける、という身近な存在であり続けたいですね。顔の見える企業として、お客様から満点が貰えるよう、今後も頑張っていきたいと思っています。

【本記事へのご意見・ご要望】
名護市政推進部
金融・情報特区推進室
☎ 53-1212(内239)
✉ itf@city.nago.okinawa.jp

お知らせ
金融 IT 企業への就職を
お考えの皆さまへ
5月22日(金)より市
役所に個別就職相談窓
口が開設されます!
☎ 雇用開発推進機構
☎ 098-859-6140

特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
(平成21年4月末現在)

企業数 27社
雇用数 900人



有限会社MKcom
企画技術部長
松田 稔さん

Profile

会社創設メンバーで「MKcom(エムケイコム)」という社名及びロゴデザイン考案者。営業活動を職員としつつ、技術者としても現場を飛びまわる万能・多才の企業人。

有限会社MKcom
コンサルタントマネージャー
比嘉 幸美さん

Profile

事務系の仕事を経て昨年5月にMKcom社に「見習い」入社。現在は「わが社のホープ」と呼ばれるが、コンサルティンクからPC販売までこなす23歳の転職営業ウーマン。

名護市生まれのIT企業 「プロ意識」と「使命感」

名護市生まれのIT企業

「会社設立の経緯について。」

(松田さん) 当社は平成15年に合資会社として設立され、最初の拠点として豊原のマルチメディア館に入居しました。北部地域の各種ネットワークの運用・管理などの仕事を手がけながら、3年のインキュベーション期間(新規に事業を起し、軌道に乗せる迄の時期)を経た平成17年に、マルチメディア館を「卒業」し、現在は宇佐佐に新たな拠点を設けています。

「社員数や業務について。」

(松田さん) 設立当初は2名だった社員数も今は社長以下8名で業務にあたっています。お客様との対話を進める企画技術部、そしてテクニカルなサポートを行う専門スタッフとで、適宜チームを組みながらお客様のニーズに合うサービスを提供するようにしています。

「見習い」からスタート

「比嘉さんの入社のかきつけは。」

(比嘉さん) 以前は事務系の仕事に就いていました。でも補助的な内容の業務が続く中で、次第に自分で責任を持って一つの仕事をやり遂げられる職場を見つけたと思うようになりました。

入社前のITの知識は。

(比嘉さん) 専門知識はありませんでしたが、入社面接の時に、何でも勉強する意欲があることをアピールしたところ、まずは「見習い」ということで採用されました。その後、約1カ月でネットワークの知識を学び、2カ月目からは現場研修で必要な知識を習得していきました。まさに、「習うより慣れる(笑)」という6カ月の試用期間を経て正式に社員となりました。

「現在の業務について。」

(比嘉さん) 私は人と話すことが好きなので、お客様とコミュニケーションを図る今の仕事が好きです。当社は様々なITサービスの提供を行っています。その第1歩は、まずはお客様と打ち解け、その会話の中できちんとニーズを把握することです。最初のアプローチから、その後のフォローまで、丁寧にお客様と接することを心がけています。

スピーディな対応は信頼につながる

「IT企業に求められるものは。」

(松田さん) 技術や知識、それにプロ意識が大事だと思っています。ちよつとした事でも迅速に、きめ細やかに対応する、お客様からみて、かゆいところに手が届くようなサービス提供をすることが当社のモットー。

有限会社 MKcom (エムケイコム)
【業務概要】
●WEB サイト広告企画・設計・構築
●コンピュータ販売・教育・サポート
●ネットワークシステム設計・構築・運用保守
【創立】平成17年5月26日
【所在地】名護市宇佐佐 1458-3 ちゅら咲 201
【会社ホームページ】
<http://www.mkcom.co.jp/>



【本記事へのご意見・ご要望】
名護市政策推進部
金融・情報特区推進室
☎ 53-1212(内239)
✉ itf@city.nago.okinawa.jp

お知らせ

6月26日~28日にIT企業社員向け「ヴァリュースキル中級コース」が北部生涯学習推進センターで開催されます!

●アールシーエス(株)
☎098-856-5563
メール suzuki@rcs.co.jp

オンライン化の波、地元企業のIT活用をサポート

「今後の事業展開について。」

(松田さん) この地域はITのインフラが整っているのでも、オフィスユーザーによる利用をもっと充実させることができません。今後は、当社もウェブアプリケーションやシステム開発により力を入れて、地元企業のビジネスチャンスにつながるようなサービスを展開していきたいと考えています。長年この地域で事業をやっている方でも、例えば、決済のオンライン化など、昨今のIT化の流れの中で、ビジネス面でのデジタル・デバイス(IT格差)に陥ることがないようサポートし、また、新たな工夫でインターネットの活用が進むような提案をしていければ幸いです。

です。お客様からの質問に対して、すぐに回答することでお客様に信頼を得ることができると感じています。

(比嘉さん) 私も今後は様々な資格取得を目指しながら専門性を高めて、お客様から何か相談された時、すぐ対応について答えられるようになりたいですね。入社して1年ですが、技術面ではまだ分からない事が多いので、もっと勉強していくつもりです。

株式会社国際システム
ITC運用部 運用監視チーム

比嘉優太郎さん

入社3年目。シフト勤務をこなしつつ社内バスケットチームのキャプテンも務める。名護大学卒。25歳。



株式会社国際システム
ITC運用部 基礎管理チーム

長山豪太さん

入社4年目。常に最新の知識と技術を維持すべく情報収集に余念がない。名護市安和出身の26歳。

株式会社国際システム
ITC運用部 SITSHITS運用監視チーム

喜屋武千穂さん

入社3年目。専門性の高い業務を「PC関係のシゴト」と親に説明している屋敷地出身の20歳。

特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
(平成21年5月末現在)

企業数 28社

雇用数 908人

名護に置かれた最新機器 常に一步先をゆく技術を

株式会社国際システムが管理・運用業務を受託している日本ユニシスの「名護ITセンター」には、グループ企業の約九千名が利用する各種システムが設置されており、名護市の産業支援センターでは、平均年齢26歳という若いスタッフ約30名が3つのチームに分かれて業務に励んでいる。

「24時間365日」の稼働を支える

所属するチームと担当業務について
(長山さん) 私が所属する基礎管理チームは業務インフラを担当しており、仮想化技術を用いたブレードサーバや、ディスク装置のストレージなどの構築と設定を行っています。

(比嘉さん) 運用監視チームは沖縄と東京の2拠点に分かれて、日本ユニシスグループの各種システムを24時間365日の体制で監視しています。

(喜屋武さん) 私はSITSHITS HITTS (シツツ・ヒツツ) といって、ユニシスグループの社員向けに、ファイル共有できるサーバの現状やウェブサーバ等、情報システムへの提供及びその運用管理業務に携わっています。

一人のきつかけは、

(比嘉さん) 在学中は主に英語を勉強していたので、ITの専門知識はありませんでしたが、名護にデータセンターが出来る

ることを知り、これまでやったことのない分野に挑戦しようと思ったのがきっかけです。

(喜屋武さん) 私は名護商業高校(現名護商工高校)の情報処理科を卒業したので3年間学んだことを生かした仕事に就きたいと思っていました。実家から通勤できる会社であることも就職した理由の一つでした。

(長山さん) 私は情報系の大学を卒業したので、ITの企業に務めたいと思っていました。入社4年目ですが、今も年に数回は東京でスキルアップの研修を受けています。でも、常に最新の知識を持っている必要があるため、日常的な情報収集が大事ですね。

打合せはテレビ会議で

東京・沖縄間のチームプレーで行われる業務。特に気をつけている点は、

(比嘉さん) 私のチームでは11名のスタッフがシフト勤務をしながら常時システムを監視しています。システム障害が発生したらずく東京のスタッフに連絡するので、その際の説明によってシステムの復旧方法が変わってきます。特に深夜の連絡などは、相手が就寝中のところを起こして電話するので、なるべく正確かつ簡潔に(笑)説明するよう心がけています。

(喜屋武さん) 私の業務でも、言葉の選根を間違えるとあとから

変です。正確に状況を伝えるよう気を付けています。トラブルが発生すると早朝から出社して、チームの対応に追われたりと大変な時もありますが、電話口で女性の声で説明されると、不思議と相手の気持ちが落ち着くのか、納得しやすくなるようです。女性はやわらかい言葉を選ぶからでしょうか。(笑)

(長山さん) 東京のスタッフとは常に電話やメールで連絡を取り合っていますが、チームごとにTV会議システムを使った打合せも行っています。

スキルアップで更に高度な業務を

今後の目標について

(長山さん) 名護には最新の機器が置かれていますので、それを使いこなして、さらに新しい業務の分野を開拓していきたいと思っています。色々な基幹業務の受け皿とされるよう、自分のスキルを磨いていかなければと思っています。

(比嘉さん) 私は監視チームで経験を積みながら、障害対応についてより広範な知識を身につけては運用・管理の業務へのステップアップを目指したいと思っています。

(喜屋武さん) 私もこれからサーバやストレージについて学びながら、全般的な運用を理解できるようにになりたいと思っています。

株式会社国際システム

日本ユニシスグループの一員としてビジネス面、教育施策、福利厚生など種々の分野で連携し事業運営しています。名護市では、産業支援センターにある日本ユニシス株式会社「名護ITセンター」の運営業務を受託しています。

【名護ITセンター常駐スタッフ】31名
【会社ホームページ】

<http://www.isd.co.jp/>



【本記事へのご意見・ご要望】

名護市政推進部
金融・情報特区推進室
☎ 53-1212(内239)

✉ itf@city.nago.okinawa.jp

お知らせ

IT/観光に関する個別就職相談(無料)

IT/観光産業へ就職を希望する方を応援します!

◇毎週金曜 12~15時(要予約)

◇市役所西棟1階 障害室

◇対象者: 高校・専門学校の新規卒業者及び一般求職者

(財)雇用開発推進機構
☎098-859-6140

外為どっとコム 名護支店特集!

アジアの金融マーケット の中心となることを目指す

特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
(平成21年6月末現在)

企業数 28社
雇用数 941人



(左より) 前豊原区長・宮城氏、名護市政策推進部長・玉城氏、名護市長・島袋氏、沖縄県副知事・安里氏、株外為どっとコム社長・大畑氏、副社長・竹内氏、NEC ネットエスアイ株社長・山本氏、株外為どっとコム名護支店長・大嶋氏

業界No.1に相応しい設えを
エントランス部分は一面がガラス張り。その一角にはLEDライトを使った一見時計と思わせる大型の替レートボードが設置されており、来訪者に驚きと感動を与える先進的デザインの演出が極められている。
オフィス内は、間仕切りが少なく、オープンなスペースが広がり、中心部に配置されている

インターネットによる外国為替保証金取引業(FX)のリーディングカンパニー(※1)として知られる株式会社外為どっとコムは、平成19年6月に資金為替業務の災害対策機能ならびにIT部門の研修施設などを備えた名護支店をマルチメディア館に開設。同支店は、その後の業務拡大に伴い、本年6月より、名護市の新たな特区施設「みらい3号館」に移転し、7月3日に移転式典が開催された。式典では、奉告祭の後、みらい3号館の前でテープカットが行われ、施設案内に続いて開所式では沖縄県副知事安里カツ子氏をはじめとする来賓より祝辞が述べられた。



1日に円換算で1000億～3000億の為替取引が行われるディーリングルーム。

書類は引き出しではなくロッカーに
セキュリティ対策及び情報管理も万全だ。入室制限はもちろんのこと、新しいスタイルが取り入れられている。まず、社員にはそれぞれパーソナルロッカーがあり、書類等は机ではなくロッカーに保管して帰宅する。取り扱うデータについても、仮想PC型シンクライアントシステムによって管理されており、端末からの情報漏えい防止が徹底されている。また、個人の



エントランスの大型の替レートボード

があり、82名のスタッフ(6月末現在)が行っている。
ガラス張りの支店長室からは、支店全体が見渡せるよう工夫が施されている。
名護支店には、資金為替2課、名護システム課、名護運用課、口座開設課、システム教育課の5つの部署が業務



「オフィスコンシェルジュ(写真左)」などの新感覚の機能や開放感のある業務スペース。

※1【株式会社外為どっとコム】
外国為替保証金(証拠金)取引業界における「口座数」「預かり資産」の2部門で、4年連続No.1を獲得(参考資料:矢野経済研究所「2008年版外国為替保証金取引の動向と展望」)

名護支店開設:2007年6月
所在地:名護市豊原181 みらい3号館
面積:1,265平方メートル

新時代オフィスのコンセプト
デザイン性に加えて、オフィス機能についても、新感覚の要素がふんだんに取り入れられている。まず、支店全体の事務・庶務関係業務、受付については、「オフィスコンシェルジュ」というセクションにて行う仕組みとなっている。スタッフ同士の打合せには、壁のない「コラボレーションキューブ」というプロジェクトやモバイルPCが完備された会議スペースが利用され、情報共有の促進、意思決定のスピードアップ等が図られている。
同社のフロント業務である外国為替取引のディーリング業務を行う資金為替2課のレイアウトは、金融特区沖縄がアジアの金融マーケットの中心となることに期待をこめて円形デザインが用いられている。
外為どっとコム社がこのような先進性に富んだオフィスの実現に取り組んだ背景には次の3つの目的がある。①企業ブランドイメージの向上、②社員のモチベーション(意欲・満足度)の向上、③フレキシビリティ(柔軟性)の確保。まさに新時代の企業の新たな価値観を体感できる空間だ。



(株)マリン・ワーク・ジャパン
 名護情報部名護情報課
兼次 藤子さん

Profile
 入社8年目。GODAC 開所からのスターティングメンバー。現在はシステムの運用管理を行うチームの一員として活躍。名護市宮里出身。
 (写真下)400テラバイトのデータ保存が可能なストレージサーバなどが設置されている GODAC のマシン室。



特区で働こう!

金融・情報特区の企業と雇用
 (平成21年6月末現在)

企業数 **28社**
 雇用数 **941人**

海と地球をデジタル化 100年先も残る情報

文系出身の女性システム管理者

——入社前のIT関連の経験は。
 (兼次さん) 平成14年に入社する前はインターネットも使えませんでした(笑)。大学では文系の専攻で、卒業後は国や県の機関で事務をしていました。ただ、これらの業務の中で、図面を扱うことが多く、図面ソフトやデータベースの知識を身に付けたことが、現在の仕事に就くきっかけになったと思います。

——入社後の研修は。
 (兼次さん) 当社の新人研修は、横浜にある本社で1週間ほどかけて行われます。その後は、それぞれの配置先でのOJT(実地研修)へと進みます。私の場合は、入社して2年半ほど映像や文書の加工をする業務に就いた後、本社と同じ横浜にある海洋研究開発機構(シヤムステック)に約2年間出向し、その間にシステムの運用管理に係わる知識を学びました。

——現在のお仕事について。
 (兼次さん) 国際海洋環境情報センター(ゴータック)のシステム管理者として、サーバーやネットワークが正常に稼働しているか、常に監視しています。その他、システムの更新や運用上の改善の提案

不具合時のメーカーとの調整などについてシヤムステック側の担当者や協力しながら進めています。

——ゴータック・システムとは。
 (兼次さん) ゴータックには、潜水調査船等で撮影された深海映像などを含む海洋データが保存されています。これらの映像データなどを見やすく加工したり、インデックス(索引)化するなどの処理をし、さらにインターネット上でも見られるようにウェブサイトで構築しています。この一連の作業を行うために使用されるソフトウェアやハードウェアを当社では



深海映像等のデータ処理を行う株式会社マリン・ワーク・ジャパン名護情報課のアーカイブ・チーム

総務的にゴータック・システムと呼んでいます。

——名護情報課について。
 (兼次さん) 当社の名護情報課はゴータック内で業務を行っています。約30名のスタッフで、映像や文書のアーカイブ化を行うチーム(15名)、インターネット上のウェブサイトやデータベースを構築するチーム(5名)、ゴータックの利用開放ゾーンを担当するチーム(5名)、そして私が所属するゴータック・システム全般を管理運営するチーム(5名)の計4つのチームに分かれています。

加工により生まれ変わるデータ

(兼次さん) 個人的に、実は海は苦手なのですが(笑)、様々な海洋・地球環境情報を、研究者の資料とするだけではなく、一般の方にも楽しんで見てもらえるデータとして仕上げ、それを配信していくという仕事にはやりがいを感じます。今後、自分のスキルを高め、チームのメンバーと一緒に良いゴータック・システムの構築に努めていきたいと思っています。ありがとうございます。

株式会社マリン・ワーク・ジャパン
 名護情報課では、国際海洋環境情報センター(GODAC)において、(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC)が保有する深海映像などの資料をデジタル化し、整理・保存(デジタルアーカイブ)しています。さらに、国内外で公開されている海洋・地球環境に関するデータを収集し、深海映像とあわせて Web サイトで一般に公開しています。また、海洋科学技術の理解増進のための施設設備の運用管理を行っています。
 【名護情報課所在地】豊原
 【名護情報課スタッフ数】約30名
 【会社ホームページ】
<http://www.mwj.co.jp/>



【本記事へのご意見・ご要望】
 名護市政推進部
 金融・情報特区推進室
 ☎ 53-1212 内239
 FAX 53-6210
 ✉ itf@city.nago.okinawa.jp

お知らせ
 IT 観光に関する個別就職相談(無料)
 IT/観光産業へ就職を希望する方を応援します!
 ◎ 毎週金曜日: 12~15時
 ◎ 市役所西棟1階守衛室内
 ◎ 対象者: 高校・専門学校の新規卒業者、一般求職者
 (財)雇用開発推進機構
 要予約: ☎098-859-6140